

## 春シラス漁の漁況経過と見通し

### (1) 漁況経過

春シラス漁（2～7月）は、H26年から好調な漁模様が続いています。

今年は2月1日から3月上旬まで過去に例のない豊漁となった後、5月上旬まで低調に推移しましたが、5月10日に新規群の加入が始まり、5月17日には、1日で67トンを超える最盛期並みの漁獲がありました（図1）。

今年は例年と異なり、2月1日からウルメシラスが、2月下旬からはマイワシシラスが混じり始め、現在も、3種のイワシ類シラスが混在しています。

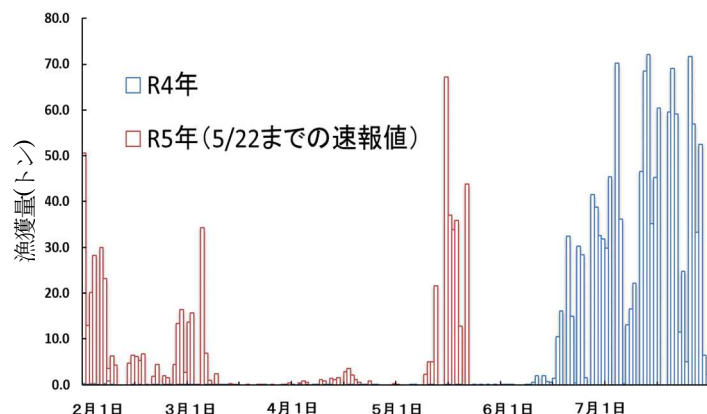


図1 シラス日別漁獲量の推移

### (2) 今後の見通し

本県の6月と7月のシラス漁獲量は、海洋観測（会瀬～犬吠埼定線）10m深水温平均値が高いほど増加する傾向にあります（図2）。

（国研）水産研究・教育機構が開発した水温予測システム（FRA-ROMS II）の6、7月の10m深水温予測（5月24日時点）では、現在、三陸沖まで北偏している黒潮は、7月には若干南下するものの、流路は現状とほとんど変わらない予測になっています。

このため、本県沿岸への黒潮系暖水の影響が継続し、10m深の月平均水温は6月が22.2℃、7月が23.1℃と、平年より1～4℃高い予測になっています。この水温値を図2に当てはめて漁獲量を予測すると6月は約1,200トン、7月は約1,000トンになります。

また、いばらき丸が今年4月に行った調査で、カタクチイワシ卵稚仔の出現量が沿岸3地点で昨年6月よりも多くなっていました。カタクチイワシの卵稚仔は1か月程で漁獲サイズのシラスになることから、5月中旬から漁獲されだした新規群は、これらの卵稚仔が成長したシラスの可能性がります。

さらに、いばらき丸の5月の調査でも卵稚仔の出現量が多いこと、本県沿岸のカタクチイワシの産卵盛期は5～6月であることから、6～7月も、新規群の加入が期待され、今年の春シラス漁は好漁になる可能性が高いと考えられます。

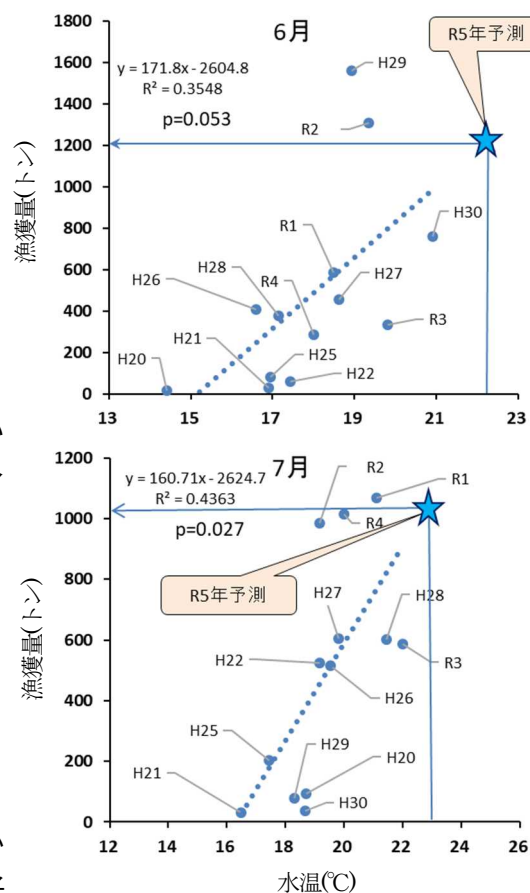


図2 シラス漁獲量と10m深水温との関係

### (3) まとめ

FRA-ROMS IIによる予測では、6、7月は黒潮系暖水の影響が継続し、10m深水温は「平年並～やや高め」で推移すること、今後も卵稚仔の供給が期待できることなどから、6、7月の漁獲量は約2,200トンとなり、今年の春シラス漁（2～7月）の漁獲水準は「好漁」と予測されます。

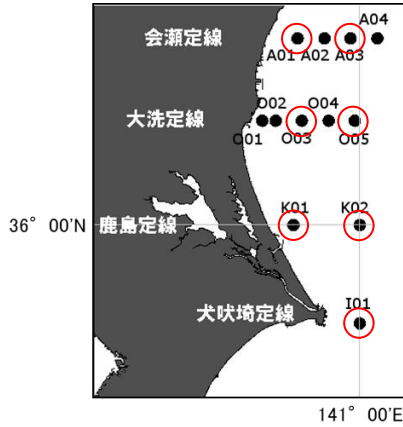
（回遊性資源部 茅根 正洋）

次号予告：R 5.6.9の「水産の窓」は「令和5年6月の海況と今後の予測」を予定しています。

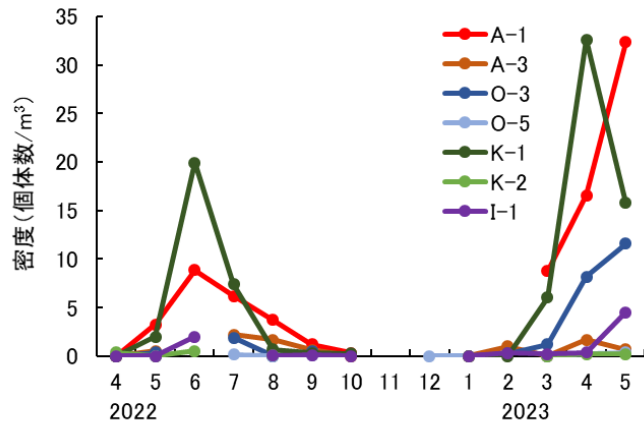
# (参考) カタクチイワシ卵稚仔調査結果

茨城県水産試験場 回遊性資源部

調査船「いばらき丸」で実施した海洋観測調査で得られたカタクチイワシの卵稚仔の分布状況に関する情報です。カタクチイワシ卵稚仔は、1か月程度で漁獲サイズのシラスになります。



卵稚仔調査地点(赤丸)



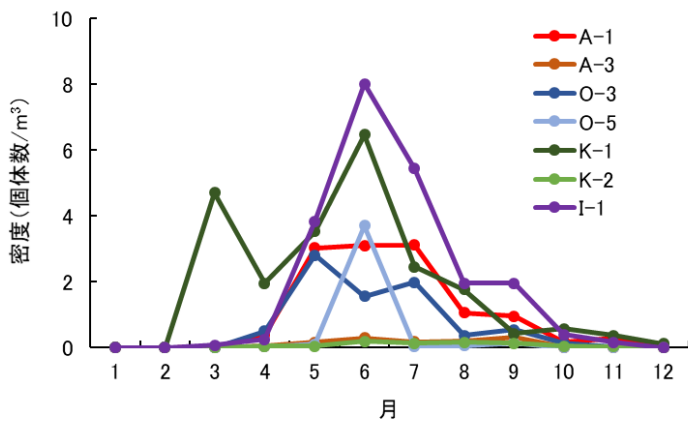
カタクチイワシ卵稚仔の密度の月別推移

表 カタクチイワシ卵稚仔の密度(1m<sup>3</sup>あたり)

年	2022										2023				
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
地点															
A-1	0	3.3	8.9	6.2	3.7	1.2	0.3	欠測	欠測	0	欠測	8.7	16.6	32.3	
A-3	0	0.5	欠測	2.2	1.7	0.6	0	欠測	欠測	0	1.0	0	1.7	0.7	
O-3	0	0.4	欠測	1.9	0	0.5	欠測	欠測	欠測	0	0.3	1.2	8.2	11.6	
O-5	0	0	欠測	0.2	0	0.05	欠測	欠測	0	0	欠測	0	0.2	0.3	
K-1	0	2.0	19.9	7.4	0.7	0.3	0.3	欠測	欠測	0	0	6.0	32.6	15.8	
K-2	0.4	0	0.5	欠測	0.04	欠測	欠測	欠測	欠測	0	欠測	0	0.2	0.2	
I-1	0	0	2.0	欠測	0.03	0.09	0	欠測	欠測	0	0.3	0.2	0.4	4.5	

- ・4月には、会瀬～鹿島の沿岸計3点で卵稚仔が多く出現しました。
- ・5月には、会瀬～鹿島に加え、犬吠埼でも卵稚仔が出現しました。

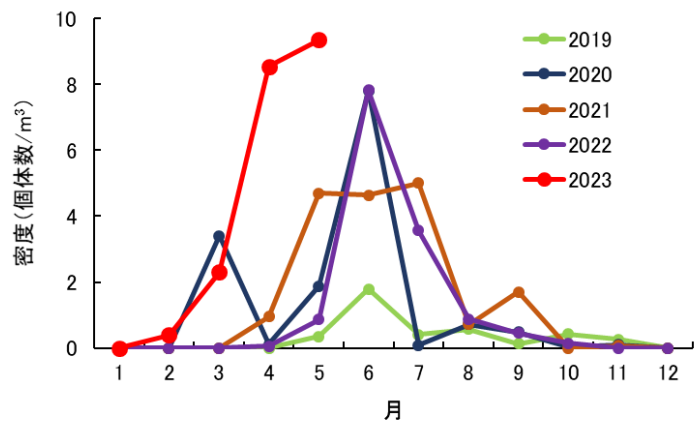
## 過去の卵稚仔の出現状況



2016-2021年におけるカタクチイワシ卵稚仔の密度の月別推移(地点別平均)

表 2016-2021年におけるカタクチイワシ卵稚仔の密度(1m<sup>3</sup>あたり)の平均値(地点別)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
地点												
A-1	0	0	0.02	0.4	3.0	3.1	3.1	1.1	1.0	0.2	0.3	0
A-3	0	0	0	0.04	0.2	0.3	0.2	0.2	0.3	0.01	0.01	0.01
O-3	0	0	0	0.5	2.8	1.5	2.0	0.4	0.5	0.1	0.02	0
O-5	0	0	0	0.02	0.09	3.7	0.02	0.05	0.1	0	0.01	0
K-1	0	0	4.7	1.9	3.5	6.5	2.5	1.8	0.4	0.6	0.4	0.1
K-2	0	0	0	0.04	0.04	0.2	0.1	0.2	0.1	0.04	0.02	0
I-1	0	0	0.07	0.2	3.8	8.0	5.4	2.0	1.9	0.4	0.2	0



2019-2023年におけるカタクチイワシ卵稚仔の密度の月別推移(年別平均)

表 2016-2023年におけるカタクチイワシ卵稚仔の密度(1m<sup>3</sup>あたり)の平均値(年別)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2016	0	0	0.01	0.01	0.3	1.4	3.2	0.3	0.2	0.3	0.2	0
2017	0	0	0	0.1	3.8	2.9	2.0	0.6	1.0	0.08	0.03	0.01
2018	0	0	0	1.5	0.9	1.4	1.0	1.5	0.3	0.09	0.07	0.08
2019	0	0	0	0	0.3	1.8	0.4	0.6	0.1	0.4	0.3	0
2020	0	0	3.4	0.1	1.9	7.8	0.09	0.7	0.5	0.04	0.1	欠測
2021	0	0	欠測	1.0	4.7	4.6	5.0	0.7	1.7	欠測	0.07	0
2022	0	0	0	0.05	0.9	7.8	3.6	0.9	0.5	0.1	欠測	0
2023	0	0.4	2.3	8.5	9.3							

\* カタクチイワシ太平洋系群の資源量は近年、減少傾向にあることをふまえ、2016年以降(資源減少後)におけるカタクチイワシ卵稚仔の密度の平均値を示しました。